



## 『方広寺の梵鐘 (芥田五郎右衛門)』

京都国立博物館の北隣に豊臣秀吉を祀った豊国神社があります。同じ敷地内か？隣の方広寺へ行きました。梵鐘の銘文に『国家安康』『君臣豊楽』の文字が刻まれています。徳川家康に難癖をつけられ『大阪夏の陣』の口実になったことは有名な話です。

私の興味はそのことではなく、この大梵鐘の製作に関わった人たちのことです。姫路近辺に戦国時代末期より、芥田（あくた）五郎右衛門という郷土が住んでいました。加西郡芥田城の城主だったこともあります。代々芥田五郎右衛門を襲名し、播磨の鋳物師（いもじ）の棟梁を務めていました。（播磨国鋳物師惣管職）鋳物師としての三代目にあたる、芥田五郎右衛門充商（家次）が脇大工として播磨の鋳物師達百数十人を同道して、この方広寺大仏に付随する大梵鐘の製作にかかわったのです。

大工は三条釜座（さんじょう かまんざ）の名越弥右衛門尉三昌、脇大工には芥田五郎右衛門のほか江戸より一人・駿河より一人と記されています。慶長19年（1614）3月、82トンの大梵鐘の本体が吹かれました。非常に大きな梵鐘でしたが、見事に吹上げることができました。その功績により、芥田五郎右衛門は薩摩守の称号を得ています。こんな大きな梵鐘、今でも出来るのでしょうか？ちなみに知恩院の梵鐘は70トンとのことです。

鐘楼に大仏殿の風鐸がころがっていました。それには三条釜座、名越の銘が刻まれています。この大仏殿は慶長16年（1611）11月に完成したものです。

### 風鐸の銘

慶長拾七曆 三月吉日 鋳物師大工 名越弥右衛門尉 藤原朝臣三昌  
近藤宗左衛門尉 藤原朝臣宗久

風鐸（ふうたく）：塔・仏堂などの軒の四隅などに釣り下げてある、小さい鐘の形の鈴。右の写真は法隆寺、夢殿のもの。

大工：今では家を建てる人だけを大工と言いますが、辞書には・・律令制で、木工寮（もくりょう）又は大宰府に属した工人の長。（広辞苑）  
芥田（あくた）五郎右衛門：姫路には関連する町名が残っています。  
五郎右衛門邸・鋳物師町・鍛冶町・金屋町・鍛冶裏町など。

参考資料 方広寺拝観の栞  
松岡秀夫傘寿記念論文集  
兵庫史の研究 脇田 修 1985年  
播磨国鋳物師考 竹内 貞 1980年



方広寺の大梵鐘



方広寺大仏殿に使われていた風鐸の銘



むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！

今年1年のご愛顧 感謝！！

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/>  
ryou@memenet.or.jp